

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月13日

上場会社名 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 武藤 信一
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部コーポレートコミュニケーショングループ長 (氏名) 川野辺 浩司
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月13日

上場取引所 東

TEL 03-5843-5115

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	705,436	—	11,221	—	19,236	—	12,198	—
20年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	31.45	31.44
20年3月期第2四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	1,392,704	515,015	35.8	1,287.32
20年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 499,208百万円 20年3月期 一百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,480,000	—	25,000	—	40,000	—	27,000	—	69.63

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
① 会計基準等の改正に伴う変更 無
② ①以外の変更 無
(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第2四半期	387,850,182株	20年3月期	一株
② 期末自己株式数	21年3月期第2四半期	61,791株	20年3月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第2四半期	387,801,770株	20年3月期第2四半期	一株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年5月12日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。

なお、1株当たりの予想当期純利益の算定に当たっては、平成20年9月30日現在の発行済株式数を使用しております。

平成20年9月30日現在 発行済株式数:387,789,391株

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を及ぼす可能性のある重要な要因には、当社グループを取り巻く需要動向、為替レートの変動、公的規制、自然災害・事故等がありますが、これらに限られるものではありません。

3. 「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

4. 当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し、株式移転により共同持株会社として設立されました。当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年同四半期実績はありません。

平成21年3月期の個別業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（％表示は、通期は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通 期	13,000	—	10,000	—	9,000	—	8,000	—	20 63

- （注） 1．個別業績予想数値の当四半期における修正の有無：有
 2．1株当たり予想当期純利益の算定にあたっては、平成20年9月30日現在の発行済株式数を使用しております。平成20年9月30日現在 発行済株式数：387,817,964株

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)におけるわが国経済を取り巻く環境は、米国の金融危機に端を発する世界経済の低迷、資源・食料品等の物価上昇、ねじれ国会による政治混乱など、明るい材料は見られず、減速しております。

百貨店業界におきましては、同業・他業態との競争激化に加え、消費マインドの冷え込みから、売上高の前年割れが続いており、業界再編は加速の一途を辿っております。

このような状況の下、当社グループは「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」の実現に向けた取組みを行ってまいりました。

以上の取組みにより、第2四半期連結累計期間の売上高は705,436百万円、営業利益は11,221百万円、経常利益は19,236百万円、四半期純利益は12,198百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①百貨店業

中核の百貨店業におきましては、本年4月の統合記念祭、6月の東京メトロ副都心線開通、9月の伊勢丹新宿本店における婦人フロアのリモデルを行い、新しい顧客の開拓に踏み出しておりますが、見通しの悪い経済状況の下、全体の底上げまでには至らず、各店舗で前年より減収となりました。なお、店舗政策の選択と集中の一環として、三越の池袋店、鹿児島店、武蔵村山店(東京都武蔵村山市)、名取店(宮城県名取市)および小型店舗(鎌倉、盛岡)各店の営業終了および池袋店の固定資産譲渡を本年9月に決定しております。

海外百貨店に関しましては、瀋陽伊勢丹(中国)の開店や既存店の売上拡大により増収となりましたが、開店に伴う経費負担増等により、減益となりました。なお上海錦江伊勢丹(中国)の清算を本年8月に決定しております。

売上高は655,451百万円、営業利益は10,153百万円となりました。

②クレジット・金融業

クレジット・金融業におきましては、(株)伊勢丹アイカードが利用金額の伸び悩みと、本年11月に発行いたします「VISA付新アイカード」のシステム投資のため、減益となっております。

売上高は7,335百万円、営業利益は1,216百万円となりました。

③小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、(株)クイーンズ伊勢丹が本年3月に砧店(東京都世田谷区)、4月に東陽町店(東京都江東区)をオープンし、増収となりましたが、新規開店に伴う経費負担増により減益となりました。なお、希望ヶ丘店(東京都世田谷区)は9月30日をもって閉店しております。

売上高は31,627百万円、営業損失は150百万円となりました。

④その他事業

その他事業におきましては、不動産管理業を行う(株)三越不動産や物流業を行う(株)伊勢丹ビジネスサポートなど25社で構成されております。

売上高は74,223百万円、営業利益は779百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,392,704百万円となりました。うち流動資産は270,380百万円、固定資産は1,122,324百万円であります。

流動資産の主な内容といたしましては、現金及び預金48,056百万円、受取手形及び売掛金105,164百万円、商品67,523百万円であります。

固定資産の主な内容といたしましては、有形固定資産792,090百万円、無形固定資産74,965百万円、投資その他の資産255,268百万円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は877,688百万円となりました。うち流動負債は513,387百万円、固定負債は364,300百万円であります。

流動負債の主な内容といたしましては、支払手形及び買掛金101,281百万円、短期借入金174,566百万円であります。

固定負債の主な内容といたしましては、長期借入金33,300百万円、繰延税金負債194,898百万円、退職給付引当金64,371百万円、負ののれん59,554百万円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は515,015百万円となりました。

(自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は35.8%となりました。

(1株当たり純資産額)

当第2四半期連結会計期間末における1株当たり純資産額は1,287円32銭となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、41,944百万円となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、4,829百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益14,374百万円の計上による収入があったこと、一方、主な支出として仕入債務の減少17,135百万円、法人税等の支払額5,159百万円があったこと等によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、15,132百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12,511百万円、無形固定資産の取得による支出3,684百万円があったこと等によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、12,088百万円の収入となりました。これは主に、長期借入金を22,718百万円返済、社債を10,000百万円償還する一方、短期借入金の増加25,973百万円、コマーシャルペーパーの増加21,000百万円があったこと等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

第3四半期以降も、金融危機などに伴う景況感の厳しさは一段と増し、個人消費の低迷も続くことが見込まれ、営業状況は厳しくなることを予想しております。このような状況の下、売上高が当初予想を下回り、それに伴い営業利益、経常利益、当期純利益も当初計画を下回る見通しとなったため、平成21年3月期の通期連結業績予想を修正しております。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し、株式移転により共同持株会社として設立されました。当連結会計年度が第1期となるため、該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)
(資産の部)	
流動資産	
現金及び預金	48,056
受取手形及び売掛金	105,164
有価証券	512
商品	67,523
製品	990
原材料	495
仕掛品	150
その他	50,671
貸倒引当金	△3,184
流動資産合計	270,380
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	201,653
土地	567,549
その他(純額)	22,887
有形固定資産合計	792,090
無形固定資産	
のれん	318
その他	74,646
無形固定資産合計	74,965
投資その他の資産	
投資有価証券	116,530
その他	140,723
貸倒引当金	△1,985
投資その他の資産合計	255,268
固定資産合計	1,122,324
資産合計	1,392,704

(単位：百万円)

当第2四半期
連結会計期間末
(平成20年9月30日)

(負債の部)	
流動負債	
支払手形及び買掛金	101,281
短期借入金	174,566
未払法人税等	3,223
引当金	18,989
その他	215,327
流動負債合計	513,387
固定負債	
長期借入金	33,300
繰延税金負債	194,898
退職給付引当金	64,371
引当金	466
負ののれん	59,554
その他	11,710
固定負債合計	364,300
負債合計	877,688
(純資産の部)	
株主資本	
資本金	50,000
資本剰余金	319,114
利益剰余金	125,991
自己株式	△65
株主資本合計	495,041
評価・換算差額等	
その他有価証券評価 差額金	4,005
繰延ヘッジ損益	△11
為替換算調整勘定	172
評価・換算差額等合計	4,167
新株予約権	755
少数株主持分	15,051
純資産合計	515,015
負債純資産合計	1,392,704

(2) 四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)	
当第2四半期連結累計期間	
(自 平成20年4月1日	
至 平成20年9月30日)	
売上高	705,436
売上原価	507,778
売上総利益	197,658
販売費及び一般管理費	186,436
営業利益	11,221
営業外収益	
受取利息	457
受取配当金	701
負ののれん償却額	6,617
持分法による投資利益	3,296
その他	2,365
営業外収益合計	13,439
営業外費用	
支払利息	1,568
固定資産除却損	1,244
その他	2,611
営業外費用合計	5,424
経常利益	19,236
特別利益	
投資有価証券売却益	54
特別利益合計	54
特別損失	
たな卸資産評価損	1,494
固定資産処分損	372
投資有価証券評価損	1,034
関係会社整理損	1,501
構造改革損失	512
特別損失合計	4,915
税金等調整前四半期純利益	14,374
法人税、住民税 及び事業税	1,679
法人税等合計	1,679
少数株主利益	497
四半期純利益	12,198

第2四半期連結会計期間

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	351,485
売上原価	252,313
売上総利益	99,171
販売費及び一般管理費	95,030
営業利益	4,141
営業外収益	
受取利息	232
受取配当金	211
負ののれん償却額	3,309
持分法による投資利益	988
その他	1,047
営業外収益合計	5,789
営業外費用	
支払利息	776
固定資産除却損	966
その他	1,393
営業外費用合計	3,136
経常利益	6,793
特別利益	
投資有価証券売却益	54
特別利益合計	54
特別損失	
固定資産処分損	372
投資有価証券評価損	888
関係会社整理損	422
構造改革損失	512
特別損失合計	2,194
税金等調整前四半期純利益	4,653
法人税、住民税 及び事業税	△69
法人税等合計	△69
少数株主利益	193
四半期純利益	4,529

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	14,374
減価償却費	12,195
負ののれん償却額	△6,617
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△344
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△462
受取利息及び受取配当金	△1,158
支払利息	1,568
持分法による投資損益 (△は益)	△3,296
投資有価証券売却損益 (△は益)	△54
固定資産処分損益 (△は益)	372
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,034
関係会社整理損	1,501
構造改革損失	512
売上債権の増減額 (△は増加)	13,339
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,143
仕入債務の増減額 (△は減少)	△17,135
未払費用の増減額 (△は減少)	△2,723
その他	△6,817
小計	8,431
利息及び配当金の受取額	3,169
利息の支払額	△1,612
法人税等の支払額	△5,159
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,829
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6,158
有形固定資産の取得による支出	△12,511
有形固定資産の売却による収入	5,006
無形固定資産の取得による支出	△3,684
投資有価証券の取得による支出	△6,053
敷金及び保証金の回収による収入	7,607
その他	661
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,132
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	25,973
長期借入金の返済による支出	△22,718
社債の償還による支出	△10,000
コマーシャルペーパーの増減額 (△は減少)	21,000
配当金の支払額	△1,994
その他	△172
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,088
現金及び現金同等物に係る換算差額	△293
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,492

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
現金及び現金同等物の期首残高	27,208
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	13,244
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,944

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	百貨店業 (百万円)	クレジット・金融業 (百万円)	小売・専門 店業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	655,163	4,679	26,722	18,870	705,436	—	705,436
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	288	2,655	4,904	55,353	63,201	(63,201)	—
計	655,451	7,335	31,627	74,223	768,638	(63,201)	705,436
営業利益又は営業損失 (△)	10,153	1,216	△150	779	11,999	(777)	11,221

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主要な内容

- (1) 百貨店業……………衣料品、身廻品、雑貨、家庭用品、食料品等の販売
- (2) クレジット・金融業……………クレジットカード、貸金、損害保険代理、生命保険募集代理
- (3) 小売・専門店業……………婦人服、食料品、衣料雑貨、家庭用品等の販売
- (4) その他事業……………不動産管理業、製造・輸出入等・卸売業、物流業、総合人材サービス業、
情報処理サービス業等

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金は50,000百万円、資本剰余金は319,114百万円、利益剰余金は125,991百万円となっております。なお、発行済株式数は387,850千株となっております。

(重要な後発事象)

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

当社は、平成20年8月22日の取締役会の決議に基づき、株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ(以下「IMS」)及び株式会社ジェイアール西日本伊勢丹(以下「WJRI」)に係る子会社等の経営管理及び営業支援業務(以下「本件事業」)を、当社の100%子会社である株式会社伊勢丹(以下「伊勢丹」)から当社に承継させる会社分割(以下「本会社分割」)を平成20年10月1日に実施しました。

1. 会社分割の目的

当社グループでは、平成22年春のシステム統合をスピーディーかつ確実にを行うための体制作りを目的としたシステム子会社再編プロセスを進めております。現在までに、伊勢丹及び株式会社三越(以下「三越」)の情報システム関連事業・資産のIMSへの集約が完了しております。今般、その最終段階として、IMSに係る子会社等の経営管理及び営業支援業務を当社が伊勢丹から承継し、IMSを当社の直接子会社としました。なお、IMSの発行済株式のうち、三越が保有していた18.4%につきましても、別途当社が三越から取得し、本会社分割と併せ、IMSを当社の100%子会社といたしました。

また、当社グループでは、ジェイアール大阪三越伊勢丹(仮称)を運営することを予定しております。当該事業は当社グループ全体としての重要プロジェクトであることから、本会社分割により、WJRIに係る子会社等の経営管理及び営業支援業務についても当社が伊勢丹から承継し、当社がWJRIの直接の株主となることといたしました。この体制の下、当社グループと西日本旅客鉄道株式会社の経営資源の最適ミックスを行い、よりスピード感を持って、関西地区のお客様にご満足いただける百貨店作りを推進するための体制を構築してまいります。なお、本会社分割に先立ち、伊勢丹がWJRIによる60億円の第三者割当て増資を引受け、WJRIに対する出資比率を現在の33.3%から40%に引き上げております。したがって、本会社分割後は、当社がWJRI株式の40%を保有することになります。

2. 会社分割の要旨

(1) 吸収分割の効力発生日

平成20年10月1日

(2) 分割方式

伊勢丹を分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割です。

(3) 承継により増加する資本金等

該当事項はありません。

(4) 分割会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

伊勢丹は、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

(5) 承継会社が承継する権利義務

当社は、吸収分割契約の定めにしたがって、効力発生日において伊勢丹が本件事業に関して有するIMS株式及びWJRI株式を承継します。

3. 承継する事業部門の概要

(1) 承継する部門の事業内容

IMS及びWJRIに係る子会社等の経営管理及び営業支援業務

(2) 承継する資産、負債の項目及び金額

資産	
項目	帳簿価額
関係会社株式	8,090百万円
合計	8,090百万円

(注) 関係会社株式の内容は、株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ株式及び株式会社ジェイアール西日本伊勢丹株式です。

(参考)

平成21年3月期第2四半期の個別業績（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

個別経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	2,333	—	1,186	—	627	—	371	—

(注) 個別業績は法定開示におけるレビュー対象ではありません。